

湘南

市民立太陽光発電所 快晴

茅ヶ崎で稼働2カ月、2号も計画

茅ヶ崎市の市民グループが中心となって設立した「市民立太陽光発電所」が市内中心部で運転を始めて2カ月。二酸化炭素を出さない自然エネルギーへの関心も上々で、省エネの機運も高まってきた。環境にやさしい電力の価値を示す「グリーン電力証書」の発行も、市内の企業の協力ではば決まり、第2発電所を建てる計画も持ち上がっている。(松本健造)

省エネ意識も高まる

市民立発電所を設けたのは市民グループ「ちがさき自然エネルギーネットワーク」(REN)。10年前から太陽光や風などの自然のエネルギーを生活に取り入れようと活動をしてきた。

発電所計画は2年前から本格的に取り組み始めた。市の協力で市民活動サポートセンター(同市茅ヶ崎3丁目)の屋根を借り、出力7・77キロワット(年間発電量8060キロワット時)の設備を造り、7月上旬から稼働させた。生み出した電力は同センター

市民活動サポートセンターの屋根に設置された太陽光発電パネル。茅ヶ崎市茅ヶ崎3丁目

で使い、節約した電気代は市の「ふるさと基金」で積み立ててもらおう仕組みだ。

600万円近い設置費の大半は、自然エネルギーに賛同する個人や企業が電気料金の上乘せで払う拠出金などを積み立てた「グリーン電力基金」の助成金でまかない、不足分は募金活動で集めた市民や企業などの寄付で補った。発電は順調で、センターを訪れた市民らは、その様子を玄関わきの電力表示板で見ることが出来る。

市民グループ代表の上野ひろみさん(50)は「発電の開始以来、センターの消費電力が昨年に比べてかなり減った。スタッフや利用者の省エネの意識が広まったからです」と喜ぶ。自身も98年に発電パネルを自宅に設置し、省エネの工夫で使用電力のほとんどをまかなう。

自然エネルギーの電力であることを示す「グリーン電力証書」は環境対策のシンボルになるとして、証書を販売する予定だ。市内の大手企業から内諾を得ており、証書の売却代金は、発電した電気料金などと合わせて第2発電所の建設費に充てる計画だ。

